今週の聖書研究ガイドのポイント　青年用

総題　“ダニエル書”

教団青年部

		2020 年2月 15 日～22 日
第８課	題：荒海から天の雲へ	執筆者：下地英樹

- 今週のポイント

① 今週は、ダニエル書７章を学びます。
② ７章の幻は、ダニエル書２章の夢とよく似ており、２章で明らかにされたことをさらに発展させています。
③ ダニエル書７章には４つの獣が登場します。
　獅子…獅子はバビロンをあらわしています。（ダニエル書２章では金の頭）
　熊…熊はメディアとペルシアの帝国をあらわしています。（ダニエル書２章では銀の腕と胸）
　豹…豹はアレクサンダー大王が樹立したギリシア帝国をあらわしています。（ダニエル書２章では銅の腹と腿）
　獣…最後にものすごく、恐ろしい獣が登場します。10 の角を持つこの獣は、先に登場した獣たちよりも残酷で、強欲にも見えます。これは異教ローマをあらわしています。（ダニエル書２章では鉄のすね）
④ 第４の獣から「小さな角」が登場します。小さな角は以下の特徴を持っています。これらに該当するのは、ローマ教皇であり、ローマ教皇権です（『よくわかるダニエル書』p.58、59 より）。
　a. 立ち上がる場所：ローマ帝国。
　b. 立ち上がる時：ローマ帝国が 10 の角に分けられたあと。
　c. 立ち上がる環境：10 の角の間。
　d. 立ち上がる時に起きること：３本の角が抜け落ちる。
　e. 形態：10 の角と同じ王国。
　f. 10 の角と異なる点：10 の角と同じ王国であるが、役割と主要な関心事が宗教に特化する。
　g. 特徴：人の目のような目と大きな事を語る口。
　h. 宗教的な特性：大胆な言葉で神に敵対する、神の民を迫害する、神の時と律法を変更する。
　i. 活動期間：ひと時、ふた時、半時の間。
　j. 最後の運命：統治権が奪われて終末に至る。
⑤ 「ひと時、ふた時、半時」とは、「１日＝１年の原則」（エゼキエル書４：６、民数記 14：34）に従えば、1260 年になります。この間に、小さな角は神に対して攻撃を始め、聖者らを迫害し、神の律法を変えようと試みます。これは教皇権が確立された 538 年から、ナポレオンによって教皇ピウス６世が投獄され、教皇権が失墜した 1798 年までの期間です。
⑥ 小さい角の後に、ダニエルは天における裁判の光景を見ます。裁判が開かれると、王座が据えられ、「日の老いたる者」がそこに座りました。この裁判に関して注目すべきことは、それが小さな 角の活動期間（1260 年）後、神の最終的な王国の樹立前になされている点です。これは、再臨前審判を表しています。
⑦ ダニエル書7:13 には「人の子」が登場しますが、これはイエス・キリストを示しています。
⑧ 「いと高き者の聖徒ら」とは神の民の称号です。彼らは迫害に遭いますが、最終的には勝利します。

ディスカッションのテーマ

① ダニエル書７章の預言について考えてみてください。なぜ預言が与えられたのでしょうか？
② 第４の獣について考えてみてください。
③ 小さな角の特徴について考えてみてください。